

令和5年2月 日

瀬戸市長 伊藤 保徳 様

瀬戸市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体会議  
委 員 長 伊 澤 俊 泰

## 提 言 書 (案)

瀬戸市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体会議において、瀬戸市における課題の検討を行い、その中で瀬戸市に必要な施策について議論を重ねてまいりました。

その結果、別紙のとおり取りまとめたので、ここに提言いたします。

## 【提言事項】

### 1 提言

「地域の活性化に向けた高齢者施策～居場所づくりと担い手支援～」

### 2 説明

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、地域とのつながりの希薄化が懸念されている昨今、本会議ではウィズコロナ、アフターコロナを見据えた外出機会の創出を検討してきた。瀬戸市では、高齢者が多く集まる場所として、個人宅や公民館等が主なところであったが、①環境等の要因によって再開できない、居場所が再開できても体力低下や免許返納などが原因で来るができなくなった人も多くいることから、あらためて「地域のつながり」を再構築する必要性を感じるところである。

②厚生労働省の報告によると、令和2年度時点で地域の居場所として登録されている場所は全国に128,768 か所あり、平均すると人口1,000人当たり1か所以上ある状況である。瀬戸市は全国平均から見ると居場所の数がかなり少なく、地域での居場所づくりが喫緊の課題となっている。

まず、既存の居場所の維持・継続を行うために地域の課題に取り組むこと、地域住民間でその課題を共有し、住民同士の協力によって解決に向かう仕組みを作っていくことが重要である。

そのため、サロン開設者、運営者に対する継続的な支援、参加者が気軽に参加できる環境づくりをすることを目標として取り組むことを提言する。

以上

(参考)

## ■ 協議体の審議経過

### 1 令和3年度の活動状況

第1回：令和3年6月29日（火）

- ・第1層・第2層生活支援コーディネーターの活動報告
- ・瀬戸市施策の進捗状況報告
- ・瀬戸市の課題検討

第2回：令和3年10月25日（月）

- ・第1層・第2層生活支援コーディネーターの活動報告
- ・瀬戸市施策の進捗状況報告
- ・地域資源・地域課題の共有

第3回：令和4年2月28日（月）

- ・令和3年度生活支援コーディネーター活動報告
- ・瀬戸市移動支援における地域ニーズの報告
- ・外出機会を創出するために必要なツールについての検討

### 2 令和4年度の活動状況

第1回：令和4年7月4日（月）

- ・協議体、生活支援コーディネーターについて
- ・令和4年度生活支援コーディネーター活動計画・報告
- ・令和3年度瀬戸市施策の報告
- ・コロナ禍における地域資源、地域課題の共有

第2回：令和4年11月7日（月）

- ・協議体について
- ・生活支援コーディネーター報告
- ・地域課題についての検討

第3回：令和5年2月13日（月）

- ・生活支援コーディネーター活動報告
- ・政策提言についての意見交換

## 2 瀬戸市生活支援・介護サービス提供主体等協議体委員

委員長：名古屋学院大学経済学部教授

伊澤 俊泰

副委員長：瀬戸介護事業連絡協議会

鈴木 伸一郎

委員：社会福祉法人瀬戸市社会福祉協議会会長  
一般社団法人瀬戸旭医師会

加藤 勝之

垣花 将史（令和3年度）

高橋 清一（令和4年度）

地区社協会長連絡会会長

安藤 和世

瀬戸市自治連合会会長

伊藤 勉

瀬戸市民生委員児童委員協議会会長

丹羽 蒼（～令和4年度第2回）

山口 利明（令和4年度第3回）

公益社団法人瀬戸市シルバー人材センター会長

河島 良文（令和3年度）

茂木 文男（令和4年度）

特定非営利活動法人瀬戸地域福祉を考える会まごころ代表 大秋 恵子

第1層生活支援コーディネーター

荻原 剛（令和3年度）

八木 正宏（令和4年度）

瀬戸市基幹型地域包括支援センター

長谷川 友子（令和3年度）

近並 友里（令和4年度）